

異文化理解こみ問題：テーマ多彩

叡啓大卒業研究発表

中区

広島市中区の叡啓大の4年生83人が21日、自らが設定した課題を1年間かけて研究する「卒業プロジェクト」の成果を学内で発表した。一部を一般公開し、6人が保護者や市民たち約60人に披露した。

各学生は地域のごみ問題や現代アニメ、地域資源の活用、うつ病など幅広いテーマを設定。行政から意見を聞いたり、フィールドワークをしたりして研究を深めてきた。

岡野穂乃香さん(22)はフィンランドでの留学経験などを踏まえ、「異文化コミュニケーション教育」をテーマに発表した。日本人が謝る時などにする「お辞儀」について4カ国の留学生の受け止めを調査。それぞれ頭を下げる動きやそのタイミングに驚いていたとし、反応に差異があったことが分かったという。

どでまねのの違いに驚くことがある。外国人労働者が増える中、お互いが不安に感じないためにも

異文化理解を深める手法が教育現場で広がればと「思う」と話していた。

(佐々木大輔)



研究の成果を発表する
岡野さん